

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名	作成年月日	直近の更新年月日
上富田町	朝来・岩崎・生馬	令和3年3月30日	令和4年9月26日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	216ha
②アンケート調査に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	130ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	66ha
i.うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	16ha
ii.うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	1.17ha
④地域内において今後中心経営体引き受ける意向のある耕作面積の合計	3.81ha
備考 ①地区内の耕地面積には遊休農地1.19haを含む	

2 対象地区の課題

<p>農業従事者の高齢化が進んでおり、後継者未定が多い。 鳥獣被害が多い。 田の割合が多いものの、1戸あたりの耕作面積が小さく、水稻だけでは農家の所得が上がりづらい。 受け手側の中心経営体が一握となりつつある。 地域外から新たな担い手を受け入れたいが、1筆の面積が小さい、不整形地が多い等の理由により受け手が現れない。</p>

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>集落の農地利用（主に水田）は、出荷先を確保している中心経営体への集積を促進する。 今後中心経営体となる新たな担い手を地域内外から確保し、育成する。</p>

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

(農地の貸付けの意向)

貸付けの意向が確認された農地は、1,019筆、73.4haとなっている。

(農地中間管理機構の活用方針)

J Aや農業公社と協力し、中心経営体への集積を積極的に進める。

(中心経営体の確保・育成方針)

中心経営体数を維持・増加させるため、水田を活用した高収益作物の導入などを検討していく。

5 上富田町「人・農地プラン」検討会の意見

現状は水稻がメインだが、ほとんどが不整形地である。

近年のライフスタイルや農業構造の変化により、市街地の宅地化が進んでいる。

農地の受け手も限られているため、農地を守るためにも、今後は畑としての活用を視野に入れる必要がある。

中心経営体（朝来・岩崎・生馬地区）

属性	経営体名	現状		今後の農地の引き受けの意向		
		主な経営作目	経営面積	主な経営作目	経営面積	経営範囲
認農	001	野菜・水稲	70 a	野菜・水稲	70 a	岩崎・朝来
認農	002	野菜・水稲	189 a	野菜・水稲	220 a	朝来・生馬
認農	003	水稲・野菜・果樹	140 a	水稲・野菜・果樹	140 a	生馬
認農	004	野菜・水稲	78 a	野菜・水稲	78 a	生馬
到達	005	水稲	150 a	水稲	150 a	岩崎・朝来
認就	006	水稲・野菜・果樹	100 a	水稲・野菜	100 a	朝来・生馬
認農	007	水稲・野菜	487 a	水稲	730 a	朝来・生馬
	008	水稲	146 a	水稲	150 a	岩崎・朝来
	009	水稲	158 a	水稲	160 a	朝来・生馬
	010	水稲・野菜	57 a	水稲・野菜	57 a	生馬
	011	果樹	31 a	果樹	31 a	岩崎
	012	水稲・野菜	131 a	水稲・野菜	131 a	生馬
	013	水稲・野菜	50 a	水稲・野菜	60 a	朝来
	014	水稲・野菜・果樹	119 a	水稲・野菜・果樹	120 a	朝来・生馬
	015	野菜	43 a	野菜	43 a	朝来・生馬
認農	016	水稲・野菜・果樹	160 a	水稲・野菜・果樹	170 a	生馬
認就	017	野菜・果樹	20 a	野菜・果樹	100 a	朝来
経営体数計	17 経営体	面積計	2129 a	面積計	2510 a	